

東由利町報

No. 275 昭和53年3月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



農 営 メ モ

◇稲作栽培の総点検を！

昨年の稲作で、冷害に対する技術対応が一応成功したかのように見られています。しかし、まだまだ異常気象が予想されますし、ここ二、三年の豊作は好天候によって支えられた面も多分にありますので、油断はできません。

今後の技術対応としては、基本技術の強化と生産意欲の向上がより一層大切です。本格的な農作業に入る前に、今年一年の稲作りの計画を再点検し、新しい気持ちで出発しましょう。

地力増強、健苗育成、施肥や水管理、病害虫防除など稲作全般に個々の基本技術を総点検するとともに、植付け品種や植付け場所などは、ただ漫然と決めるのではなく過去の実績などを十分に検討して決定する必要があります。

そのほか、生産資材等に不足はないか、農機具の整備や点検などもそろそろ始めてもよいでしょう。

出かせぎに出ている方は、留守家族と連絡を密接に行い、春からの農作業に支障がないよう特に心がけましょう。

(東由利町農業総合指導センター)

No 275

3 / 1

情報交換など盛会に



在京郷土出身者の応援も

出かせぎ者短期研修・懇談会

出稼ぎ者短期農業研修および懇談会は、今年も二月十九日に東京都で行われました。

この会は、町の出かせぎ対策事業の一つとして一昨年から開催されていたもので、会場にあてられた日本都市センターには都内および近県から約百十人の出かせぎ者が訪れ、町から出席した町長以下町職員や農協組合長、参事らと約五時間にわたって懇談、出かせぎの状況や留守家族のことなどに情報交換を行いました。

今年、視察を主とした例年の研修とは趣を変え、始めに農林省就業構造改善課の久保田課長補佐から、日本経済の情勢と農家の実情や全国の出かせぎの情勢などを中心に、約四十分にあつて講演があり、参加者からは、水田利用再編対策や牛肉の輸入拡大による国内市場への影響、モデル出かせぎ解消事業の実態などについて農林省の姿勢に質疑が寄せられ、それぞれに全国的な視野での農家の立場、農業経営のあり方について理解を深めたようです。

引き続き行われた懇談会では、いさつに立つた町長は、予算案を中心に昭和五十三年度の町事業を紹介、理解と協力を求めました。また、県出稼ぎ互助会東京連絡所の宇佐美所長は「……



↑午前9時頃から参加者はぞくぞく訪れた

今季の出かせぎは労災事故は少ないが、酒を飲んだ上での事故が多い……」と警告。一方、組合長からは、水田利用再編対策や牛肉の輸入拡大に伴う市場価格の低下などについて、その現状と対応を中心にあいさつがあり、三者とも健康には十分に注意するよう強く要請しました。

このあと、係から町の出かせぎ状況や来年度の出かせぎ対策事業などについての説明があり、参加者からも帰省バスや雇用保険の受給、新聞の送付など出かせぎ対策や宿小学校的の改築問題、分収林の取り扱いなど、町政の全般にわたって活発な要望や意見がありました。

特に、今春から始まる水田利用再編対策については「……グループ内でもよく話題になるが、

正月帰省した時に聞いただけでは理解できない面もあり、動向については新聞で知る以外にはなく、情報不足なのでどうしたらよいか決めかねている。もっとと情報を提供してほしい……」の声も多くあり、今年の営農計画に不安を訴える方もありました。

午後からは、折詰めやお酒、ジュースなどを交しながらの懇親会。めいめいに近況交換などを行ったほか、即席の舞台には東京で活躍している町出身の横山幸二郎さん（向田出身）、小松昭光さん（宇戸坂出身）、佐藤昇二さん（下小路出身）、佐藤功さん（八日町出身）らが、尺八、三味線の奏者とともに激励問に訪れ、参加者も交えてさながら「民謡大会」を思わせるほどのムードをつくり、「東田利にこんなふうな気がする」と大いに喜ばれました。

↓講演に聞き入る参加者たち



→受付けなどに在京の小松義典さんらも応援



引き続き不況の中にあつて、地方自治体はますます厳しい財政運営を強いられています。そんな中ですすめられていた昭和五十三年度町予算の編成作業は、去る二月十五日に町長の最終査定を終えて予算案がまとまりました。

新年度予算案まとまる

一般 会計 十五億九千万円台に

それによると、一般会計の総額は十五億九千九百三十三万一千円で、前年度当初予算比三億二千三百五十四万四千二百三十三・五増になっています。

このように大幅な伸びを示した最大の要因は、前年度にも増して各種の公共事業を積極的に

導入したことによるもので、特に土木関係費は五十八・八、農林水産業関係費（主として農業関係費）は四十六・三、その他伸びており、厳しい財政状況下にあつても道路の新設、改良を中心とする生活環境の整備や農業生産基盤の整備、福祉の拡大な

ど町政の全般にわたつて、事業中心の積極予算にしようとしたことがうかがえます。なお、同予算案には計上されませんでした。三月定例議会終了後、次の臨時議会には国の景気浮揚策の五十三年度特別措置として、老朽校舎の改築費（宿小学校）約一億八、九千万円と、第二次農業構造改善事業の特認事業費（多目的集落センター）約一億四千万円の補正予算案も提案される見通しです。

→ 帰省までの無事故を誓つて全員で万歳三唱



このほか、木内勇二さん（横小路出身）と小松義典さん（宇戸坂出身）も朝から応援にかけて、受付けや会場整理など

に一役買つて出るなど、在京の郷土出身者の行為は深く感謝されました。会は、最後に全員で帰省までの無事故を誓ひ合つて農協参事の音頭で万歳を三唱し、盛会のうちに終了しました。



↑ 雪のこと、家族のことに情報交換の話題はつきない

↓ 出かせぎ対策のほか町政全般に意見、要望が寄せられた



↑ のど自慢、を思わせるほどに会場は熱気にあふれた

3月6日～同18日

一般家庭の予防査察

本荘地区組合消防署東由利分署職員による一般家庭の予防査察が、三月六日から同十八日まで町内の全世帯を対象に実施されますので、ご協力をお願いします。

▽査察の重点事項

- ・ 火気使用設備の管理について
- ・ 老人、子どもの安全避難について
- ・ 対震消火装置付石油ストーブの使用について
- ・ 子どもの弄火防止について
- ・ 一一九番通報要領について
- ・ 危険物の保管、取扱いについて
- ・ 就寝前火の元点検について

主婦ら家族 310人が参加

＝出稼ぎ留守家族懇談会＝

事業所訪問の8ミリフィルムも上映



年ごとに盛会
 になっている出稼ぎ留守家族懇談会は、今年も二月十二日に開催されました。会場にあつた有隣館には、町が各地区ごとに運行した福祉バスなど四台で、主婦を中心に留守家族三百十人余りがぞくぞくと訪れ、これまでの最高の参加者を記録しました。

懇談会ではまず、町長が担当職員、東京派遣や技能訓練講習会、雇用保険問

相談に必ずする事柄

最近における厳しい経済環境に對処し、県内の中小企業の経営の安定に関する緊急対策を迅速に推進するため、県では一月四日に「緊急中小企業対策本部」を設置しました。

これを受けて、さらに地域中小企業の個別経営相談の推進体制を確立するため、先ごろ由利地方本部（事務局一本荘市水林 由利地方総合庁舎内、由利地方企画管理室）を設置しました。

緊急中小企業対策として

由利地方本部を設置

県では、このたび金融対策として今までの融資制度のほかに新たに「小規模企業緊急特別保証融資制度」「中小企業基盤強化特別保証融資制度」の二つを発足させ、金融対策を強化しました。

また、金融対策のほか、受発注の促進、経営指導や技術指導雇用対策、木材工業対策等により相談に応じ、指導援助を行うことになっています。

相談は、電話でも受け付けられますので、気軽にご利用ください。

電話 〇一八四二
 一（二）五四三一

中小企業者（商業、サービス業も含む）は、これら緊急対策について相談したいときは、役場産業経済課か、商工会に連絡され相談の幹旋を受けてもよいですが、直接地方本部に相談されても結構です。

電話相談もOK

題や留守対策など、町の出かせぎ対策や実態の説明を兼ねてあさいさつ、続いて県出稼ぎ互助会の佐々木相談員が、同会の制度と内容について説明、理解を深めました。

さらに、長谷山町議会議長が、委員長と町農協組合長があいさつに立ち、出かせぎ者と留守家族の連絡を密接にするよう、特に強く要請しました。

このあと、一月の下旬に十日間にわたって上京、事業所訪問等を行ってきた係が、その状況と今季の出かせぎの概要について説明。事業所訪問についてはその状況を納めてきた八ミリフィルムが上映され、参加者たちはスクリーンに家族の顔や声が出るたびに、その一挙一動に目を走らせ、指さして元気な姿を確認し喜び合っていました。

また、説明のあと参加者からは道路の除雪など留守生活についての要望が出されました。

映画「ダンブの母さんと六人の子どもたち」を鑑賞したあと、午後からは町が準備した折詰めやお酒、ジュースなどを交しながら留守家族同志の親交を深めたほか、ステージには町民謡同好会（伊東国男会長）の慰問演芸があり、参加者からの飛入りの演芸も後を断たないほど出て、積雪も多くなり毎日忙しいなかで、楽しいひとときを過ごしました。

スリッパ事故に注意

安全運転を！

町長日記

〇 五十三年度の予算編成が終ってホッとする。昨年は二十三・五、増十五億九千九百三十三万一千円となる。

歳入は、①地方交付税交付金五億八千八百万円（最終予算では六億一千万円程度になる見込み）②各事業の国県支出金四億八千八百万円 ③町債二億二千万円 ④各事業に伴う分担金九千万円 ⑤町債一億円 ⑥その他 となっている。

歳出で一番伸びたのは土木費で昨年は五十八・八、農業費は四十六・三、伸び、民生費は十四・五、伸びている。

〇 町自体の予算の外に、国県が東田利町で実施する事業がある。国では国会終了後でなければ発表しないが、町として予算要望している事業は、建設省に対しては、一〇七号線、法内線、金山線、農林省には第二次農業構造改善事業、ミニ総合パイロット事業、県営圃場整備事業、石高農道、農免農道根小屋線、同軽井沢線（新規）。林野庁には杉森林道（五十三年度完成）、土場沢線舗装、軽井沢災害復旧工事の危険箇所舗装。

・県に対しては、大琴流雪溝黒沢線改良、黒沢線遺地買収一〇七号線板戸地区の遺地買収、山崎鴻屋線の田屋間の改

良完成、ほか橋梁二架替、舗装及び小規模改良十五箇所、小規模圃場整備四箇所、を要望している。

〇 宿小の学校の校舎を改築することになった。国は五十三年度だけに限って、老朽校舎の点数を緩和して改築を容易にするのを、景気浮揚対策の一つとして打ち出した。

本町にとって小学校問題は苦慮している課題であるが、宿小の場合は将来とも現在の位置は動かないという見通しのもとに、政府の施策に乗って、教委、議会と協議の結果決定した。

〇 二月十九日、出稼ぎ者短期研修会と激励懇談会を東京都内の都市センターホールで開催した。折詰めに二合程度という些細な酒肴ではあったが、参加の皆さんには本場に嬉んでいたいただいた。向田出身の横山幸二郎君らは民謡団を引き連れて応援に来てくれたし、ほか在京知人の温かい協力があつて、ホール一杯が東田利ムードに盛り上がった。

〇 二月上旬の立春は当地では名ばかりであるが、春三月となれば余寒も薄れて、空に雲に、風に春を感じる。人生憂患多しと雖も、天行は健である。

農委選挙 人名簿登録者数は三、六八一人

期間中に登録の確認を

昭和五十三年一月一日現在で調整する町農業委員選挙人名簿の登録者は、二月四日の選挙管理委員会決定しました。

同選挙人名簿は毎年一月一日現在で調整されるもので、今年

農業委員選挙人名簿登録者数 (53. 1. 1)

男女別 投票区	男	女	計
第1 (館合)	377人	401人	778人
第2 (田代)	303	298	601
第3 (袖山)	84	83	167
第4 (蔵)	224	281	505
第5 (老方)	320	313	633
第6 (法内)	178	156	334
第7 (宿)	322	341	663
合計	1,808	1,873	3,681

由利学生東京寮で 入寮生を募集

- ・募集人員 21名(男子のみ)
 - ・申込締切日 3月22日
 - ・入寮費 2人部屋 月額一万二千元。他に入寮金として2人部屋で年三千元が必要
 - ・入寮資格 由利郡内出身者
 - ・寮所在地 東京都中野区白鷺1の7の10(鷺の宮駅から徒歩十分)
- また、秋田県育英会でも、秋田北盟寮(札幌市)男子学生14名、東京寮男子学生20名、川崎寮女子学生25名を募集しており、申し込み締切りは3月20日までです。
- 入寮について詳しくは町教育委員会へお尋ねください。



湯出野遺跡が県文化財に

本町では第一号の指定

県教育委員会では二月六日、新しく七件を県文化財に指定しました。

この中には、昨年発掘された本町の湯出野遺跡も含まれています。

同遺跡については昨年十月一日号町報などでお知らせ

県教育委員会では二月六日、新しく七件を県文化財に指定しました。

この中には、昨年発掘された本町の湯出野遺跡も含まれています。

同遺跡については昨年十月一日号町報などでお知らせ

- ① 一月一日現在、本町に住所を有するもの。
- ② 昭和五十三年三月三十一日現在で満二十歳以上である者。
- ③ 十以上の農地につき、耕作の業務を営む者。
- ④ 前項の者と同居の親族または配偶者。但し、耕作に従事する日数が、年間おおむね六十日に達しないと農業委員会が認めた者は除く。
- ⑤ 十以上の農地につき、耕作の業務を営む農業生産法人の組合員または社員。但し、耕作に従事する日数が、年間おおむね六十日に達しないと農業委員会が認めた者は除く。

なお、選挙人名簿は三月三十一日に確定することになっており、縦覧期間中に異議の申し出が受付られますので間違いなく登録

おおむね六十日に達しないと農業委員会が認めた者は除く。



表紙のことば

ので、特に「カゼ」には用心を。

ここ保育園では、雪にも、寒さにも負けずにこの冬を過ごした子どもたちが元気に遊んでおり、一足先に春が来た感じ。中でも、この四月に小学校へ入学する子どもたちは心がまえもしっかりでき、あとは入学式を待つばかりでした。この日はちょうどお誕生会。

(みどり保育園で)

録されているかこの期間中確認しておきましょう。

縦覧期間 二月二十三日～三月九日(毎日午前八時三十分から午後五時まで)

縦覧場所 東由利町役場

していますが、保存することはすでに決定しており、現在その具体的な検討が進められています。

なお、今回の七件の指定によって県文化財は二百八十件になりましたが、本町で指定されたのは、この湯出野遺跡が第一号です。

▽湯出野遺跡 県営ほ場整備の関連で昨年八月から十月にかけて発掘。縄文時代後期末葉から晩期中葉にかけての土壇(墓)群が確認される。土壇は百三基で東日本でも最大級のもの。ここから土器や鉢形土器のほか土偶や小玉、勾玉などの副葬品が出土した。

一滴

新学期ももうすぐ。一年生に入学するお子さんを持つ家庭では喜びもひとしお大きく、本人も指折り数えてその日を待っていることでしょう。

特に、始めての場合は一月ごろからそろそろランドセル売場に目が誘われ、そろそろわたりたり、一年生にはほど遠い学用品を買い込んだりしがちであるが、あまり高級なものを小さいうちから与えるのは考えもの。高学年用のものを一年生が持っても使い方を知らないばかりか、本当に使うところになると学用品に対する感激も薄れてしまい、かえって逆効果になることも多い。やはり学年相応の品、数をそろえたいものである。

学用品の購入にはいろいろな考え方があがるが、ランドセルなどは高価なものが必ずしも良いとは限らない。小さい子どもが背負うのだから、軽くて丈夫なことが選び方のポイント。勉強机もゴテゴテと付属品の付いたものは敬遠したい。

また、毎日元気で通学させるため健康診断も忘れてはならない。なかでも中耳炎や虫歯は早めに治しておきたいし、就寝前に一度は検眼もしておきたいもの。

町民のひろば

この欄は町民のみなさんのものです。ご意見や話題、写真などを提供してください。
 なお、本紙にあなたの写っている写真があれば差し上げます。(広報係)

東中卒業生 89%が進学希望 県内就職は二人だけ

東由利中学校では、今年も三月十五日に卒業式が行われますが、三年生は進路も決定し、今それぞれの進路に向かって最後の追い込みに入っています。

三年生の在籍は百十人(男五十人、女六十人)で、その進路の状況は、高校進学希望者は九十人(男四十四人、女四十六人)です。そのほか、八人(男三人、女五人)が各種学校(農業学園等)に進学の予定ですので、これら全体での進学率は八十九・一五%になっており、昨年の八十五・九五%を大きく上回っています。

まず、

一方、就職予定者は十二人(男二人、女十人)で、このうち県内就職は男女とも一人ずつ。ほかは関東、関西への就職になっています。これら就職予定者も大部分が働きながら定時制高校等に学ぶことになってい

ますので、実質的には百十人のほとんどが、何らかの形で高等学校教育に就くこととなります。受験も間近かに迫り、受験者は最後の仕上げに励んでいる時期です。体調を崩したりするなどのないよう、家族みんなで気

を付けてやりましょう。

下郷分校の競争率は〇・九六倍

県内公立高校の入学願書の受け付けは、二月十日で締め切られました。

本荘高校下郷分校の受験希望者は、定員四十六人に対して四十四人で、競争率は昨年をやや下回る〇・九六倍になっています。なお、四十四人の受験希望

宿小に表彰状

学連特別賞として

本荘市由利郡学校体育連盟(猪股芳二朗会長)では、先ごろ陸上競技に特に優秀な成績を残した市郡内の小学校(クラブ)を表彰しました。

同連盟では、これまでも市郡大会や県大会などに、連続して優秀な成績のあった小学校を表彰していますが、今年も表彰規定の一部が改正され、昭和五十二年度において優秀な成績を残した小規模小

学校にも、「特別優秀チーム賞」として表彰状が贈られました。

今年この賞を受けたのは、

本町の宿小、陸上競技部と仁賀保町の釜ヶ台小学校バレーボール部で、宿小が陸上競技部は昨年の六月三日に行われた市郡小学校陸上競技大会で、女子チームが初の総合優勝を獲得したのがその理由で、小規模校という満足できない条件を克服し、日々の教育活動に意欲的に取り組んでいる成果としてたたえられています。

者はすべて東由利中学校の生徒になっています。

年賀ハガキの賞品はお早めに引き替えを

昭和53年お年玉つき年賀ハガキの賞品引き替えが、1月20日から全国の郵便局窓口で行われています。

引き替え期間は7月19日までですが、お手もとの年賀ハガキの番号をもう一度お確かめの上、できるだけ早く引き替えられるようおまわっています。

昭和52年お年玉つき年賀ハガキ当選番号

◎1等 (ラジオ付カセットテープレコーダー)

A組=477137

各組共通=852497・179725

・758249

◎2等 (腕時計)

A組=下5ケタ 19022

各組共通=下5ケタ 08437

◎3等 (封筒セットとグリーティングカードセット)

各組共通=下3ケタ 893・

815

◎4等 (お年玉切手シート)

各組共通=下2ケタ61・99

・71

ねむいから

八島与四三さん (愛石)



「小さな石でも大自然を彷彿させるものもあるし、抽象的なものであっても表現力や説得力に富み、深く語りかけてくるものもある。そうした石に魅せられて……」と語るのは、家の下の八島与四三さん。

ここ数年、町内でも愛石者が増えています。八島さんもそのひとり。本格的に始めたのは三年ほど前からのこと。跡見坂で仕事(測量)をしていた時に、川で珍しい石(琥珀色の石)を見つけたのが、そのきっかけ。それまでは、石には全く興味がなく、もっぱら音楽や美術、スポーツなどに熱中していたとのこと。

「きれいに磨いて鑑賞している人もあるが、自然の良さが失われるので、私は磨きの手は加えない。春には羽後町に仕事があるので、ぜひ向こうでも探してみたい」と、早くも今年の活動期に思いを馳せて語ってくれた。

出すな 使うな

いらないマツチ

(生活文化祭消防防災展から)

慶弔

1月21日〜2月20日



誕生

おめでとう

佐藤 謙 館西
 大山 優子 能代市



結婚

おしあわせに

渡辺イマ子 住吉 誠 長女
 佐藤直美 泡ノ瀬 政雄 長女
 高橋大輔 下通 陽悦 長男
 大庭久美子 舟木 信弥 長女
 小松麻衣子 久保 義憲 二女
 長谷山孝子 向田 榮志 長女
 遠藤 力 小倉 廣男 二男

〇お悔み申し上げます

佐藤ナヲ 寺田 84歳
 齊藤ユキヨ 蔵 79歳
 佐藤忍蔵 田代 64歳

東由利町報

No. 276 昭和53年 3月15日発行 昭和42年 7月21日第3種郵便物認可 毎月1・15日発行



営農メモ

◎苗代の消雪促進を

豊かで確実な実りを得るためには、育苗形態に合わせて適期に田植えを済ませることが大切です。

そのためには、苗代の早期準備が必要です。雪解けの遅いところでは、灰や土などを散布して消雪に努めてください。

◎塩水選、種子消毒は確実に

苗代期の病害虫の発生を抑え、健康な苗を作るため

に、塩水選はもちろん種子消毒も確実に行ってください。

なお、塩

水選の比重液の割合は下表のとおりです。

種類	比重液	比重	水18ℓ (1斗) 食塩 kg	
			食塩	硫安
うるち (無芒)		1.13	3.4	5.1
〃 (有芒)		1.10	2.5	4.1
もち		1.08	1.9	3.3

(東由利町農業総合指導センター)

No 276

3 / 15

予算案などを審議

11日 議会定例会始まる

町議会第二回定例会は、去る三月十一日に招集されました。会期を同月十二日までの十二日間と決定したあと、町長が昭和五十三年度の施政方針を、教育委員長が教育方針を発表。昭和五十二年一般会計補正予算など四案件を審議、全案件を原案どおりに可決して本会議第一日目を終了しました。今議会には二十三案件が上程され、現在審議がすすめられています。今号では町長の施政方針を紹介します。

昭和五十三年予算案を提出し、町政の方針と予算案の概要を申し上げます。

わが国の経済は、昭和四十八年のオイルショック以来低迷しております。明年度の地方財政計画は、前年度比十九・一増になつており、国の財源不足は三兆五百億円ということになります。地方債計画は、公共事業をまかなうため三十二・九増という大幅な伸びになつております。

五十三年予算は国、地方とも赤字国債を背景にした予算でありまして、このきたるところで説明を要するまでもないところがございますが、もし景気浮揚に失敗し、今後税収の伸びが期待できなくなると、国、地方とも経済的、財政的に深刻な状態になるわけがあります。

総額十六億円のジャンボ予算

本町においても、このような事情から可能な限り最大限の予算案を編成しました。

総額にして約十六億円—十五億九千九百三十三万一千円で、前年度比二十三・五増、住民一人当たり二十四万円になつております。

歳入から見ても、町税は前年度比二十二・五増であります。これは五十二年調定額とほとんど同額でございます。地方交付税は五億八千九百万円、二十三・三増、町債は三十二・九増、財政調整基金からの繰入れは約二千九百万円でありまして、その他は省略いたします。

町道の

新設改良十路線 舗装は八路線

歳入において事業関係を見ても、最大の伸びは土木費でございます。これについて申し上げます。

町道の新設改良は十路線—億二千三百万円でありまして、町道の舗装は八路線—四千七百万円でありまして、

橋梁架替事業は、山谷橋一橋で一千三百万円。農道関係とし

ては小田橋架替四千四百万円、石高農道付帯工事七十万円、農免道路負担金が二路線で六百七十万円、ミニ総バ事業中の下吹農道七百万円、計五千八百万円でございます。

林道事業費は杉森林道の新設軽井沢林道の舗装で二千二百万円でありまして、

農業関係予算

国・県には十四億円を要望

次に、農業費について申し上げます。本予算案にとらわれず国・県への要望を含めて申し上げます。

県営ほ場整備は六十二。第二次農業構造改善事業は約五億三千万円、さらに特枠として一億円。農村基盤総合整備事業には約五千万円。前に述べました農道には、石高線は五十三年度中に改良が完了。農免道路根小屋線、同軽井沢線についてはそれぞれ一億円台を要望しております。

県営以外のほ場整備は団体営

で上の台地区四・二、アクト地区二・三、板戸地区十一・三を計画。小規模ほ場整備は四箇所—六・七の計画であります。

五十三年度におきまして、本町が国・県へ要望している農業関係予算は十四億円程度でありまして、これによって本町のかのりの農業基盤の改良、農業構造改善の実績が見られるものと思ひます。

農業総合指導センター、農業振興、畜産、放牧場、農村基盤総合整備計画、出かせぎ対策については、予算説明の際に課長より説明させます。

町単独で

計画転作に補助

水田利用再編対策は、減反割当て面積七十九を、対象面積一、一五四・六五割当てました。減反率六・八でありまして、対象農家数一、〇二〇戸のうち、現在のところ二・三の人を除いて割当てを了承していただいております。この点深く感謝申し上げます。

しかし、問題は実施の方法でありまして、そのためにバックホー購入費補助、サイロ設置補助を計上しましたが、このほか計画転作推進のため町単独の補助、また、ほ場条件整備のため、一定条件によって町単独補助をする考えで、今後の補正予算に計上いたします。

地域農政特別

対策事業を推進

地域農政特別対策事業とは、



表紙のことば

町公民館では、毎年町内の老人を対象に寿大学（学長小松町長—二五〇人）を開設しています。

これは、お年寄りに学習と交流の機会を提供し、家庭や

一口で申し上げますと、他の補助事業の実施状況との関連の中で、その地域に最も適した事業を約八千万円内で実施するというものでございます。

本予算案には、その推進費を計上いたしており、整備事業費につきましては今後の補正予算で提案いたします。

開発センターの前庭整備費を計上しております。

これに関連して申し上げておきたいことは、昨年十一月にオープンしましたが、運営に行き届かない点も聴かれますので、今後は職員の訓練に配慮するほか、運営審議会も発足しておりますので、町民の期待に添えるようにいたします。

工事の方は、若干の手直し工事が今春に残っております。

農村総合整備計画は、いわゆる農村モデル事業の前段階の作業でありまして、本年度中に計画案を国土庁と協議する予定でございます。

社会で果たす役割を考えながら、生きがいのある生活を築くことをねらいとしており、今年で六回目。

年間十回の開校で、講話や郷土学習、映画、レクリエーションなどのプログラムが準備されており、この日（三月六日）は、「望ましい老人像」の演題で小畑好子氏の講演があり、みんな熱心に聞き入っていました。

（朋楽荘で）

森林組合と

職員の連携で

中核林業に対応

林業費について申し上げます。中核林業に対応する態勢は、町の職員と森林組合職員とのドッキングによって効率を上げたこと考え、組合と協議し昨年の十二月からその態勢を実施しました。

五十三年度の町有林造林の事業費は、約一千八百万円でありまして、

土木費において申し上げます。林道について補助して申し上げますと、土場沢線の過疎代行林道舗装は、一、五〇〇延長する予定であります。

ヤマメ養殖に補助

商工費は二・二倍に

水産業費においては、ヤマメの養殖に大幅な補助をし、商工費は昨年度比二百二十七を計上いたしました。

高村・黒沢に 簡易水道を計画 自動車ポンプを増置

民生、衛生について申し上げます。

水道事業は、普及率が六十四・五％であります。今後の基本的な構想としては、東由利水道を拡充して解決すべき地域と単独水源を以って解決するべき地域とに分かれると思います。

五十三年度におきましては、高村、黒沢の二部落で簡易水道が実現できるよう計画中でありますし、奥ヶ沢についても検討中であります。

各福祉事業、年金、衛生については課長より説明させます。

消防について申し上げますと、現在の消防態勢は団員が二百二十三名。機材は自動車ポンプ一台、可搬式ポンプと積載車のセツトが八台、可搬式ポンプ十六台、防火水槽五十七基、消火栓百十一基であります。

五十三年度では、自動車ポンプ一台のほか、無線施設、消火栓ホースの増配備等を計画してあります。

企画室の 機能充実に努力 職員に研修の機会を

総務関係について申し上げます。

職員の研修についてですが、職員はそれぞれのポストにおいて東由利町を代表するものでありますので、東由利町の顔となり得る実務上の能力と、

近代的で豊かな人間性の涵養が必要であると思います。

そのためには、組織的に実務上の研修と社会経験の機会を設けるとともに、地方自治振興の中核は公務員の能力にかかわるという意識を強めて行きたいと考えております。

企画室の設置について申し上げますと、行政における企画には二面の性質があると思います。企画の原点はそれぞれの課にありますけれども、社会が多様になり、行政組織が複雑になり、それぞれの企画を調整し総合的に組織する必要があるといえます。これが企画の機能の一面であり、他の面は各課に属さない新たに企画しなければならぬもの、つまり創造的な企画を検討し、方向づけることであると思います。

本町でも目下、町基本計画をかね、農村総合整備計画、新農業構造改善に取り組みとしております。これらの事業推進に企画室の機能が発揮できるように努力する考えであります。

蔵・黒淵に 集落センター 人口の歯止めを努力

今後の補正予算について申し上げますと、財源としてみられるものは、繰越金は二千万円計上してありますが、これの決算における増額分。地方交付税は五億八千万円計上してありますが、交付基準額を算定いたしますと六億一千百万円になりますので、この差額。町税にお

る本予算案と調定額の最終の差額。本予算案には特別交付税は計上されてありませんので、その差額。これらが今後の補正財源となります。

宿小学校の改築工事費、蔵、黒淵の集落センターは設計完了次第、臨時議会を開き、予算案を審議していただく予定であります。

本町における小学校の状況は、校舎が老朽し、教育機能にもさしきわりをきたしておる実情であります。

幸い、宿小学校は老朽校舎対策が皆様のご協力によって実現することになりました。他の小学校も、町将来の大計に添うべ

く、今後ともご協力を賜わりますことを願う次第であります。

本町の人口の推移をみますと、昭和三十年一九、七四八人のピーク時に比し、五十三三年三月一日は六、五二一人であります。実に三分の一の減少であります。

人口の流動は、国政によるやむを得ざる動向とはいいながら、このままの方向では憂慮に堪えざるものと考え次第であります。善、住宅地の造成、二次生産事業の開拓、町内雇用の増進等に積極的に対処しなければならぬと考えます。

一丸となつて
新年度に対処

出かせぎ事業所訪問日記

PART II

一月下旬の関東地区事業所訪問の状況については、町報二七四号でお知らせしましたが、係は二月下旬に初めて関西地区の事業所を訪問しました。今回訪問したのは十一事業所でしたが、そのうちいくつかを紹介します。

関西ヤマザキ(株)

大阪第一工場 食品製造に六人が

関西ヤマザキ(株)大阪第一工場(大阪府吹田市)には、鎌田晴也さん(黒淵)をリーダーに六人が就労している。

須田人事課長、新地主任に合意安全就労への配慮を要請し、会社の概要と就労状況の説明を受ける。

→関西ヤマザキ(株)の皆さん



次に、本町の五か年間の予算を対比してみますと、昭和四十八年度の当初は四億七千五百九十一万七千円、これに対して本予算案は十五億九千九百三十三万一千円、この比は三百三十四倍と三倍に達しています。

今後の町財政のビジョンをどう推定するか、今後の課題でございます。

昭和五十三年度を展望しますと、国運にもかかわる政治、財政とも多難な年であります。長いトンネルの中に居るような国内不況、錯綜する国際関係、町村自治体にもこの内外情勢の影響が押し寄せてまいると考えます。

と安全には特に配慮されている感じであった。

東浦土建(株)

技能講習会の要望が

東浦土建(株)(愛知県知田郡)には、佐藤秀也さん(向田)をリーダーに五人が土木建設工事に従事している。

全員と懇談したところ、資格があれば高条件で就労できるので、各種の技能資格講習会を実施するよう特に要望があった。

立花組

六人が淡路島で

立花組(兵庫県三原郡一淡路島)には、三浦彦次さん(田代)をリーダーに六人が就労している。

町の執行部は、この多難な年を職員相互が協力、長短補い合

つて町民の負担にたえず得よう最善の努力をいたす考えであります。議会におかれましては、何卒ご協賛賜りますことを心から希う次第であります。

本荘市由利郡広域圏関係予算につきましては、ここでは省略しまして予算審議の際に担当課長から説明させます。

最後に、昭和五十二年度の町税は二月末をもって、全部完納いたしました。町民の皆様の深いご理解とご協力に厚く感謝を申し上げます。施政の説明を終えたいと存じます。

→立花組で働く皆さん



仕事はため池補強工事、堰堤工事、災害復旧工事、案内作業現場(二箇所)を視察。全員まじめであり、今後はオペレーターとして若い方も就労してほしいとのことであつた。

老朽ため池の補強工事で、土砂くずれのため一人がケガをしており、事故には十分注意するよう要請する。

臨時
議会

祝沢分校廃止条例など

四議案を可決

町議会第一回臨時会は去る二月二十八日に招集され、次の四議案について審議、いずれも原案どおりに可決して閉会しました。

一、東由利町一般会計補正予算（第八号）について

○昭和五十三年度事業として予定されていた林道杉森線の開

設工事について、債務負担行為を予算で定め、限度額を一千万円として本年度から発注することができるようにしたもの。

二、町立学校条例の一部を改正する条例について

○町立老方小学校祝沢分校を廃止することについて、条例の

一部を改正したもの。

三、東由利町課設置条例の一部を改正する条例について

○町行政機構の中に「企画室」を設置することについて、条例の一部を改正するもの。

四、職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例について

○除雪作業に従事する職員の特殊勤務手当について、条例の一部を改正するもの。

消防事務組合東由利分署の観測では、午前十時に瞬間最大風速三十メートルを記録しており、三月の風としては近年にないほど強いものでした。

三月一日未明から県内では台風並みの強風が吹き荒れ、海に陸に大きな被害をもたらしました。

本町でも、本格的な春の訪れを思わせた前日の天気と違って変わり、風と雪によって道路がいたるところで寸断され、唯一の交通機関である羽後交通バスも午前中は各便とも三十分以上の遅れを出し、午後からは運休したほか、全町で停電、遅いところでは復旧が午後五時ごろになるなど、生活に大きな影響を及ぼしました。

下郷農業気象観測所（役場前）によると、午前三時二十分から同四時四十分までの風速は平均十メートルを記録したほか、本荘地区

役場の調べによると、被害は住宅五件、作業小屋八件、物置き四件、車庫一件、公共施設四件の合計二十二件ですが、未確認の小破も多少ありますので、被害額はあわせて五百万円にのぼるものと推定されています。

農業を志す若者へ

国や県では、農業後継者を育てようとする研修教育、融資、認定制度などさまざまな対策に取り組んでいます。町でも町内の後継者育成のため、これらの積極的な活用を援助しています。



研修教育

営農大学校

これは、昭和五十三年度から県が開始する事業で、農業を志す高校生以上の方を主な対象にして、二か年の実践的研修教育を行うものです。ここでは、高度な技術・経営管理および組織化能力などを学ぶことができます。

講座制研修

これは、農業に従事している青少年を対象に行われるもので、農業改良普及所が中心になって行う農業技術・経営などの短期研修のほか、農作業のあい間をみて学習するパートタイム方式の講座制研修があり、それぞれに稲作のほか畜産、果樹、そ菜園芸などの

コースが準備されています。

農家留学研修

先輩農業者の家で生活を共にしながら、プロの農業者としての生き方や経営感覚を体得するのが、この「農家留学研修」です。

研修は、国内の先進農家に三か月または六か月入る場合と、アメリカ、カナダ、ヨーロッパなど海外先進国の農家に一か年農業実習生として入る場合の二とおりがあります。

特に、海外留学の場合は経費の一部について、五十万円までの貸し付け制度があります。

認定制度

青年農業者

農業に意欲をもつ青年たちをバックアップし、より一層の誇りと励みをもってもらうために「青年農業者」の認定制度があります。

この称号は、各県が行う後継

者育成のための研修（農業者大学校、講座制研修など）を終了した農業青年の中から、「立派に農業をやっている」と認められる人に、県知事が与えるものです。

グループ活動への助成

後継者の育成で何よりも大切なのは、日ごろの意見や技術などを交換する「場」を確保することです。

町では、青年たちの自己研修活動の発展を願って農業近代化セミナーに助成していますので、多くの参加がのぞまれています。

なお、詳しくは役場（産業経済課）におたずねください。

春のあらし大暴れ

推定被害額 500万円に



秋田県内の最低賃金

秋田県内の事業場および労働者に適用される最低賃金は、次のとおり改正されました。
すべての事業主は、効力発生の日からこの最低賃金額以上の賃金を支払わなければ、労働者を使用することができません。もし違反した場合には、最低賃金法で罰せられます。

最低賃金の件名	最低賃金額	除外賃金	効力発生年月日
秋田県最低賃金	1日 2,091円 (短時 1時間 262円)		52. 11. 10
産業別最低賃金	木材・木製品・家具・装備品製造業 1日 2,464円 (短時 1時間 308円) ただし、(1)家具・装備品製造業に係る業務に従事するものであって、雇入れ後6か月未満の技能習得中の者。(2)製品または廃材の結束または整理、その他これに準ずる軽易な業務に主として従事するもの。については1日 2,234円 (短時 1時間 280円)	精皆勤手当	52. 12. 30
	卸売業・小売業 (1)卸売業1日 2,480円 (短時 1時間 310円) (2)小売業1日 2,318円 (短時 1時間 290円)	通勤手当	52. 12. 30
	食品製造業 1日 2,350円 (短時 1時間 294円) ただし、雇入れ後6か月未満の者については1日 2,180円 (短時 1時間 273円)	家族手当	53. 1. 27
	自動車整備業・販売業 (1)自動車整備業1日 2,470円 (短時 1時間 309円) (2)自動車販売業1日 2,480円 (短時 1時間 310円)		53. 1. 27
	繊維産業 1日 2,160円 (短時 1時間 270円) ただし、雇入れ後6か月未満の技能習得中の者については1日 2,086円 (短時 1時間 261円)		52. 5. 22 (改正審議中)

(注)

- 1、最低賃金欄の短時は、当該事業場の一般労働者より労働時間の短い者、時給は、時間給労働者をいいます。
- 2、最低賃金の概要を、常時作業場の見易い場所に掲示する等の方法で労働者に周知させてください。

最低賃金について不明の点があるときには、最寄りの労働基準監督署または秋田労働基
局賃金課 (電話0188(62) 6 6 8 1) におたずねください。

→ 大部分のトタンがはがされた旧玉米中学校寄宿舎



町企画室を設置

三月一日からスタート

町課設置条例の一部改正が、
二月二十八日の町議会臨時会で
承認されたことに伴って、町は
三月一日に「企画室」を設置、
実質的な事務をスタートさせま
した。
これによって、町の行政機構
は一室五課になったわけです。
企画室は、町の総合計画の企画
調整に関する事務を分享するも

ので、室長以下職員二名が三月
一日付で発令されましたが、以
後、兼任の形で若干の職員が配
属される見通しです。
企画室の設置に伴う人事異動
は次のとおり。(一)内は前任職。
企画室 ▽室長佐藤文十郎(総
務課参事) 総務課参事を兼任
▽畠山基保(教育委員会社会教
育係)

一滴

最近、「行政はサービス
過剰ではないか」というこ
とばを、何回か耳にした。
このことばの背景にある
ものが何であるかは別とし
て、「行政は与えるもの、
住民は求めるもの」という
観念が、まだ息づいている
という点については、思い
あたるフシがないわけでも
ない。
戦後、日本が民主主義を
歩み始めて三十余年。時代
は変わり、文化は高まった
が、依然としているのがこ
の「行政は与えるもの……
」という個人の内面ではな
いだろうか。――要求、要
望の全てを受け入れられな
ければ、行政サービスの怠
慢を毒づき、行政もその限
界と節度を弁別することな
く、「住民本位の行政」な
ることばの上に安住してい
る――過去にそうした悪循
環はなかっただろうか。
行政はみんなのもの。そ
こにあるのは与えたり、求
めたりする行政ではなく、
「参加する行政」である。
「参加する」とは、つま
り「理解を高める」こと
であり、参加する行政に「
サービス過剰」はない。積
極的に参加することこそが
社会をよりよく築くか、め
ではないだろうか。

町民のひろば



町の概要

人口総数	6,521人
うち男	3,191人
うち女	3,330人
世帯数	1,479戸
面積	148.51 km ²

(53. 3. 1)

定時制三十年の歴史に幕

下郷分校 全日制初の卒業生も巣立つ

三月二日、本荘高等学校下郷分校では卒業生を祝福する卒業祝賀会が行われました。

同校は、昭和五十年四月に定時制課程から全日制課程の分校に移行しており、今年が定時制課程最後の卒業生二十三人と、

全日制課程最初の卒業生四十四人がいっしょに巣立っていきました。

式典では、まず佐藤本荘高等学校長が式辞に立ち「……東由利で高等学校に学ぶことができたことの意義を深く考えていた



感慨を胸に……巣立つ卒業生たち

だきたい。勉強は学校でのみ行われるものではなく、これからが本当の勉強……」と激励。

分校の榎田教頭のあいさつにつづいて、努力賞や功労賞などに十八人が表彰されたあと、町長と教育委員長からお祝いと前途への期待のことが贈られ、これに答えて卒業生代表が「……学校生活の思い出を胸に新たな気持ちで社会にふみ出し、その荒波を乗り越えてゆきたい……」と力強く決意をのべ、最後に全員で分校歌を斉唱して終了しました。

昭和二十三年八月に、勤労青少年の高等学校教育の場としてスタートした同校からは、今回の卒業生を入れて五百八十七人が定時制課程の学窓をあとにしています。このたび定時制課程最後の卒業生を送り出したことによつて、一つの歴史の幕を閉

ぬき じから

畠山東市郎さん
(狩猟・剥製)



「父親や叔父さんの影響をうけて始めたのが、昭和二十三年ごろ。当時は村田式三十番という鉄砲で、弾も一発ずつ丹念に作ったもの……」と懐かし語るのには、茂沢の畠山東市郎さん。畠山さんは狩猟が好きで人のひとりで、毎年猟期が近づくとなんとなく落ちつかなくなるといふ。猟期以外でも毎月最低二回は射撃場で腕をみがいており、市郡のクレー射撃大会では上位入賞し、昨年と一昨年は連続して県大会にも出場している。

「狩猟のほか畠山さんは鳥獣の剥製技術も持っており、本町ではただひとり剥製士に登録されている。戦争当時に、独学でむじなやまみなどの毛皮なめしを始めたのが、キツカケとか。その後毛皮の加工も学び、十三年ほど前から剥製作りを始めたとのこと、自宅にはガラス張りの鑑賞床を造るほどの熱の入れよう。頼まれるものだけで、年間三〇〜四〇体は作っており、月の輪能を作ったこともあったが、年ごとに剥製にする鳥獣が手に入りにくくなっているという。『習うよりも慣れる』です。口でも筆でもあらわせないところに、剥製のむずかしさとおもしろさがある。それは狩猟でも同じ……』と結んでくれた。

異動の届け出は早めに

* 印鑑も忘れないで

三月から四月にかけては、就職や進学などで住所を異動する方が多くなります。役場の窓口もこの時期になりますと、毎年混み合いますので、住所を異動する方は早めに準備しましょう。

他市町村に住所を異動する場合(転出)は、異動する前に役場に届け出て「転出証明書」を交付してもらってから、

じたわけですが、同時に全日制課程最初の卒業生も送り出して、現実な歩みをつづけており、町

内で唯一の高等学校教育の場として、ますます大きな期待が寄せられています。

や進学する学校によつてそれぞれ違いますので、案内書をもう一度確かめてから請求してください。

また、転出の届け出をする時には(転入する時も同じ)、国民健康保険や国民年金の加入者は、それぞれの保険証、年金証書も忘れずに持参してください。

なお、これら届け出には申請者の印鑑が必要です。忘れられないように。

あるいは抄本は、就職する会社

電話はみんなのもの

イタズラはやめよう

電話設備の人為障害が多発しており、電報電話局では協力を呼びかけています。

◆ 家屋の増改築などの際、引込線や電話機等の設備を移転する時は電話局に届け出てください。無届け移転は法律で罰せられることがあります。

◆ 公衆電話のお金投入口へ紙くずを詰め込んだり、落書きなどのイタズラはやめてください。万一、ボックスの破損やイタズラを発見したときは電話局にお知らせください。

◆ 猟銃散弾でケーブルに被害してしまった場合には、直ちに連絡してください。